

ここが問題！リニア新幹線

2017. 1. 10 NO. 50 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

リニア非常口建設はとんでもない大工事になる

リニア・東百合ヶ丘非常口工事説明会

2017年1月14日(土)13:30～

〃 1月18日(水)18:00～

いずれも川崎市立長沢小学校体育館

(川崎市麻生区東百合ヶ丘2-24-7)

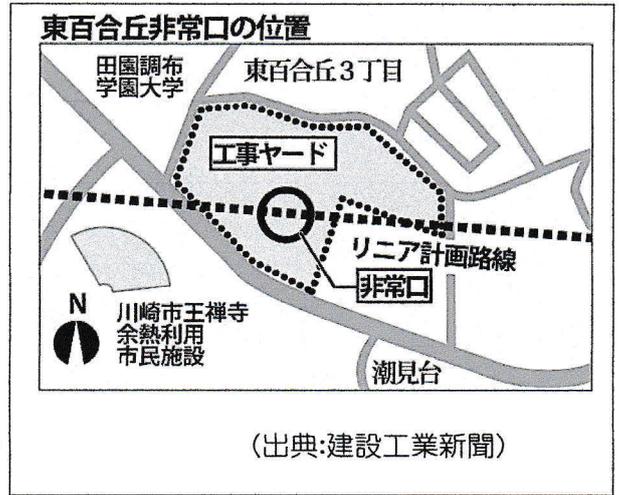
川崎市内のリニア非常口工事の説明会が左記の日程で開かれる。東百合ヶ丘非常口予定地は、尻手黒川線に面した旧日本合成ゴム(現JSR)研究所跡地で、リニアの環境影響評価方法書が出された時点で、大手ゼネコンが7割、スーパーいなげやが3割を買い取っている。既にいなげやは開店しているが、その造成工事でも周辺の住宅に泥埃や振動・騒音の被害が出た。また、尻手黒川線は交通量が多い(ヨネッティ前で1日1万7千台)。環境影響評価準備書段階で、JR東海は東百合ヶ丘非常口工事に関連する工

事関連車両の走行路として、王禅寺東や王禅寺西の住宅街の生活道路を予定していたが、住民の市議会への陳情があり、尻手黒川線の犬蔵方面から工事車両を走行、ヨネッティ前のゼブラゾーンに停車させ、工事ヤードに右折させる計画を示している。しかしこれにも無理がある。

- ①尻手黒川線は日常的に主要交差点で渋滞が発生している。このため、工事予定地の周辺の狭隘な道路を自家用車などが迂回路として使用しており、リニア工事の車両がゼブラゾーンに待機すれば渋滞が日常化し迂回車両が増えて、住民の通行が危険にさらされる。このため、住民からは工事ヤード北側の一部に通学路を設けてほしいとの要望が出ている。確かに、非常口周辺には、稗原小、長沢小、王禅寺中央小、南百合小、長沢中、王禅寺中央中などの学校があるにもかかわらず、JR東海は住民の切実な要望を拒否している。
- ②東百合ヶ丘非常口工事で、まず必要なのは尻手黒川線に接する台地の法面を大規模に削り、道路と同じ平面にすることである。それでないとい非常口は掘れない。そして崩す間は工事車両は田園調布学園大学に通じる狭い道路(坂)を使用せざるを得ない。一ヶ所から大型のダンプカーを出入りさせることで、閑静な周辺住宅への影響は計り知れない。
- ③リニア非常口工事は長期にわたる。工事ヤード内には汚泥の分離施設や掘り出した土砂のストック・ピット、大型クレーン、ブルドーザーなど数多くの施設や建設機械が配置され、月～土の朝7時半から午後6時まで大きな騒音と振動、大気汚染を発生させる。住宅密集地の中で長期間工事をしてJR東海は「万全の措置を講じるので影響はない」と言い張っている。
- ④東百合ヶ丘非常口予定地は旧日本合成ゴム研究所跡地であり、土壌汚染や地下にある産業廃棄物の処理が心配だ。土壌汚染が見つれば、土壌の入れ替えや改良のため工事は更に長期化する。また、予定地にはおよそ9千年前の縄文時代の遺跡が見つかった。市が調査をしたが、工事により遺跡は消滅、川崎市民の貴重な歴史遺産が永久に失われることになる。
- ⑤JR東海は品川～名古屋までの沿線各地で着工を急いでいるが、とても住民の理解が得られるとは言えない。また、工事による家屋への影響について、昨年6月の町田市野津田非常口工事説明会では、周辺30メートル以内は工事前に家屋調査を実施し、工事による被害が確認されれば補償をすると説明している。しかし、30m以内というのはあまりにも狭小である。拙速な着工を許すととんでもないことになる。

なお、東百合ヶ丘予定地はJR東海が既に大成建設から買い取り、工事は大林組・フジタ・大本組のJVが行うという。

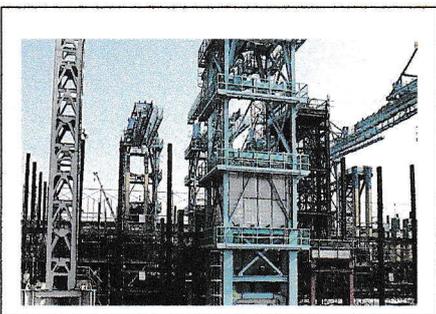
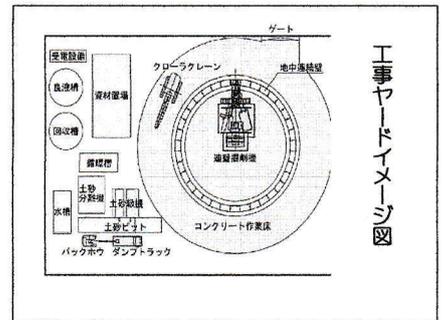
リニア新幹線・川崎市麻生区東百合ヶ丘(3丁目)非常口
 右図は東百合ヶ丘3丁目の立坑予定地の見取り図。中心の太い道路が尻手黒川線で、「川崎市王禅寺余熱利用市民施設」とあるのがヨネッティ。非常口工事では、車両は右手から来て、工事ヤード手前の尻手黒川線のゼブラゾーンに待機し、順次右折し現場に入る計画だが、それまでの造成工事では、田園調布学園大学に面した入り口から入らざるを得ないが、これまでの説明会では具体的な内容は示されていない。「リニア計画路線[非常口]」と書かれている部分は「スーパーいなげや」であるが、手前を右左折し迂回する車両が多いことから、下のような看板が掲げられている。それでも迂回路や方向転換に使う車が後を絶たない。



子どもや住民の通行の安全をどう守る～交通指導員を置くだけ

昨年、名古屋のリニア駅新設工事や名城非常口工事、そして町田市野津田非常口工事説明会では、住民から工事車両の走行について「地域の交通安全に影響がある」、「通学時間での走行や止めるべきだ」との意見が出された。これに対しJR東海は「交通指導員を置く」としか答えていない。また通学時間帯の走行は止めると確答していない。大気質・振動・騒音などの調査も毎日行うわけではなく、苦情が工事事務所に寄せられたら、その段階で対応を考えるというしこ加減なもの。

巨大な非常口工事では、さまざまな巨大施設や建設機械が稼働する
 右図は予想される工事ヤードの見取り図である。この図だけでは建設施設や機械等の高さは分からないが、参考に東京外環道路の換気口工事の建設現場の写真が下である。リニア非常口の直径は30mで、ちょうど地下鉄トンネル工事で地盤が崩落した福岡市博多駅前の穴と同じ大きさである。ずっと小規模な「いなげや」造成工事でも敷地内に積み上がった土砂が埃りとなって周辺に飛散したり、振動や騒音の被害も出ている。リニア非常口建設工事はとてつもなく大規模なものとなり周辺への影響は計り知れない。

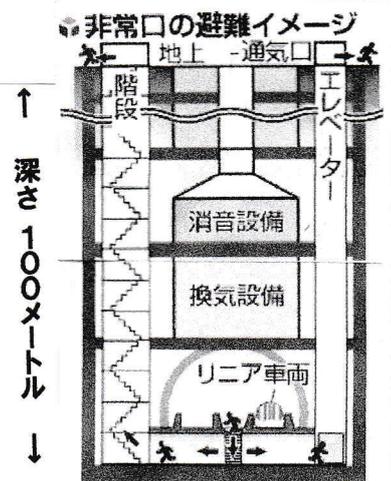


非常口と言っても、その主要な役割はトンネル掘削機械を中に入れ、トンネル残土を運び出すための立坑

東百合ヶ丘非常口はリニア供用(開業)後は、非常口と換気口として使用されるが、大深度トンネル工事の申請が行われていないので、大深度法に縛られない立坑としてつくられる。町田の工事説明会では、「ニューマチックケーソン工」を採用するという説明があったので、東百合ヶ丘でも同じ工法が採用されそうだ。このため大量のコンクリートミキサー車が稼働

するため騒音は周辺に響く。

残土の処分地や車両の走行ルートも未定の工事説明会は許されない！
 川崎市内のリニア工事で407万m³の工事残土が発生し、工事車両は140万台にもなる。ところが、5か所の市内非常口から残土を運び出す車両(ダンプカー)の走行ルートも運び先も未定。こんな段階で工事説明会を開いて住民に工事を納得させることは不可能だ。名古屋での説明会では「処分地が決まらなければ工事は中断する」と回答をしている。また、JR東海は、周辺住民との間で「工事安全協定」や「環境保全協定」を結ばないと明言している。長野県大鹿村での工事説明会でJR東海は「住民が納得したかどうかはJR東海が判断する」という暴言を吐いている。



東京・神奈川連絡会が誕生5周年、リニアニュース50号到達

◆昨年12月、リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会が結成から5周年を迎えました。また会報の「ここが問題！リニア新幹線」も今号で50号に達しました。2011年秋のJR東海によるリニア説明会に参加し、その事業内容に疑問と不安を持った市民有志で同年12月に川崎で結成されました。以来5年間、市や神奈川県のアセス審議会の傍聴や方法書、準備書の説明会や公聴会で、市民目線でリニア計画の見直しを求めて発言してきました。

◆また、東京湾横断道路の避難路、川崎区の大師河原貯留管トンネルの工事現場、中原区の江川貯留管などの現場を見学、山梨実験線のトンネル工事現場や残土処理場も視察しました。方法書では明らかにされていなかった市内のリニアルートや立坑予定地も予知し、各地域で住民説明会を主催するなど、現場周辺の住民の方々と交流や意見交換を行いました。2012年1月には多摩市民館でリニアの電磁波を学ぶ学習会を初めて開催、4月には中原区の総合自治会館でシンポジウム「あなたの真下をリニアが通る、リニア新幹線は必要か」を行い、160名の参加者が梅原淳氏（交通ジャーナリスト）や川村晃生氏（慶大名誉教授）の講演に耳を傾けました。

◆10月22日、JR東海の東京本社があるJR品川駅近くのJR東海社員用バス停で初めて社員向けのチラシ配布を行いました。この社員向けチラシ配布とアピールはこれまで6回になりました。

◆地元では、南武線の武蔵小杉、武蔵中原、武蔵溝口、登戸各駅や小田急線新百合ヶ丘駅などの駅前で数限りなく街頭宣伝活動を行ったほか、溝口の「公害、健康、まちづくりフェスタ」や中原平和公園の「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」などにブースを設け、写真を使ってリニアの問題点を市民に知らせてきました。

◆2013年2月10日、相模原市橋本で「リニア新幹線沿線住民ネットワーク」が結成され、東京・神奈川連絡会は主要なメンバーとして、品川・名古屋間の沿線に広がる住民の活動にも積極的に加わってきました。

◆2014年10月、国交大臣がJR東海のリニア工事実施計画を承認したため、2か月後の12月、承認処分の取消しを求める沿線住民を中心とした5,048名の異議申立書を提出。その審査が一向に進まない一方でJR東海が各地で着工式を開く動きを加速したため、2016年5月738

色々な活動をして来ました



二〇一二年十一月
リニア山梨実験線見学



二〇一三年八月
山梨実験線再開抗議



二〇一三年一月
リニア沿線ネット結成



二〇一三年七月
麻生市民館 リニア説明会

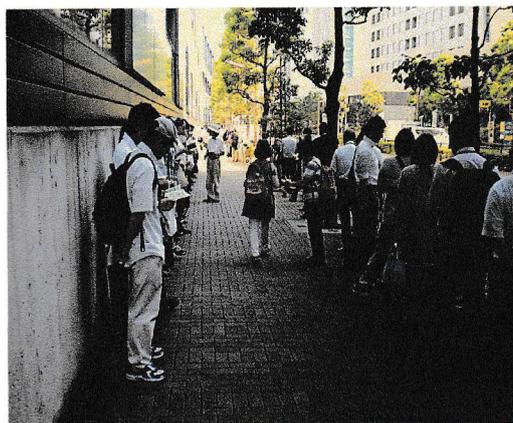
名を原告とした「ストップ・リニア！訴訟」を東京地裁に提起しました。東京・神奈川連絡会は町田連絡会と協力し、原告約150名、訴訟サポーター約200人を集めるなど大きな役割を果たしました。私たちの活動はニュース発行50号に表れているようにこの5年間、中断なく続けられ、市民のリニア新幹線への関心は高まっています。◆今年は更に活動の強化を図り、裁判にも積極的に関与して、工事の着工をさせないために尽力しましょう。そのためには、現在約50名の会員をさらに拡大し、活動のための足腰と財政の強化が必要です。安心・安全な未来のために、健康第一で今年も頑張りましょう。



二〇一四年六月
川崎市内立坑見学ツアー



二〇一五年十一月
リニア訴訟キックオフ集会



品川駅のJR東海社員向け
チラシ配布とマイクでの訴え



二〇一六年五月二〇日
ストップリニア！訴訟



大師河原の貯留管
シールドトンネル工事見学



二〇一七年もこの旗のもとで
未来へ向けて活動しよう！



2014年12月
国交省に異議申立て

(写真は全て東京・神奈川連絡会撮影)

ここが問題！リニア新幹線NEWS NO. 50
リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会
天野捷一(中原・高津) 090-3910-8173
山本太三雄(宮前) 090-8775-1879
矢沢美也(麻生・多摩) 090-6108-6568